

セメスター留学便り 九月

南開大学に来てから、すでに一ヶ月が経ちました。来た当初は、日々の生活が冒険に等しいものでした。日々感じる新鮮さは変わらないものの、毎日授業を受け、学内外へでかいているうちに、いくらか余裕が生まれてきたようです。

中国文学科内では定番の後期セメスター留学ですが、今年度から対象が全学部二年生以上に広げられました。今回はセメスター留学に興味を抱いている皆さんのために、私たちのこの一ヶ月を振り返りつつ紹介します。

○南開大学での生活

毎月曜、木曜、金曜日は早朝七時の太極拳から始まります。中国人の朝は早く、七時には食堂に向かう人々とすれ違います。はじめのうちは重たい体を引きずっての参加でしたが、日を追ううちに体も慣れ、朝の靄がかった空を楽しめるようになりました。

平日五日間、毎日午前中には小班、大班の二つの授業があります。小班は少人数の中国語の授業です。前日の授業の復習や発音練習、听力(リスニング)を重点的に行います。大班は大人数で行われる、文法解説中心の授業です。どちらも授業はすべて中国語で進められます。発言回数に差こそあれ、一人ひとりの積極的な参加が求められることは変わりません。

午後は週三回、文化講座が開かれます。学生は武術、引率の佐川先生によるテーマ別講義(今回のテーマは「天津と天津ゆかりの人物」)、さらに自分の興味にしたがって二胡か京劇のいずれかを選択し受講します。留学の締めくくりに発表会が行われるため、どの講座でも気を抜けません。



大学の敷地内には教室棟、宿舎の他、体育館や屋内プール、スーパーや銀行、床屋も存在し、およそ大学とは思えないほどです。

宿舎には調理設備がないため、毎日三度の食事は外へ出かけることになります。宿舎のすぐ脇に留学生向け食堂もありますし、学生食堂や、学内に点在する飲食店を開拓していくのも楽しいと思います。学外には日本でもお馴染みのファストフード店や、さらに多くの商店があり、仲間同士での情報交換は欠かせません。

○古文化街

九月中旬の土曜日には、二班に分かれて古文化街の観光に行きました。古文化街とは、明・清代の町並みを再現した天津の観光地です。天津名物の泥人形や「狗不理包子」「十八番街」麻花」など、さまざまなお店が軒を連ねています。

女子学生は、毎年国学院がお世話になっているという旗袍(チャイナドレス)店に向かい、各々旗袍を購入しました。



既製品を購入もしくは生地から仕立ててもらいましたが、殆どの学生が生地から注文したようです。店内から気に入った生地を選び、刺繍やデザインを選択し、採寸をして注文完了です。注文した旗袍は出来上がり次第、宿舎まで届けてくれるとのこと、今から到着が楽しみです。



○語学パートナー

九月二十三日の午後には語学パートナーとの交流会がありました。日本語専攻の中国人学生だけでなく、大学内の日本語を勉強している学生が参加しているようでした。それぞれの動機などを聞いていると、中国人学生の日本に対するイメージが伺えて、それだけでも面白い体験でした。また自分の中国語の至らなさを痛感した点でもいい刺激だったと思います。

○誕生日会

九月二十四日には生活部の企画で、九月に誕生日を迎えた友人たちを祝う、合同誕生日会が催されました。料理やお酒が振舞われたほか、ケーキも登場し、大いに盛り上がりました。

○一ヶ月を振り返って

今この文章を書きながら、もう一ヶ月が過ぎたのか、と改めて驚いています。意識して振り返ってみると、語学はさておき、中国での生活習慣には早々に慣れていたので気づきます。例えば、道路を渡るときには「左見て右見て」「絶対に走らない」。どうでしょう、日本とは正反対でおかしいような変な気持ちになりませんか？中国では車は左ハンドルで、さらに車道を走るいかなる車・自転車も歩行者が渡りきるのを待ったりしません。道を歩く際には細心の注意と度胸が必要です。先に行く中国人の後ろを真似して歩くのも良い手だと教わりました。

(中国文学科2年 塩野谷美奈)